

中国会計・税務実務ニュースレター

今回のテーマ：中国の電気自動車市場について

中国の電気自動車（Electric Vehicles, EVs）市場は、現在、急速に拡大しており、世界の自動車市場における存在感を増しています。日本のニュースでも話題として取り上げられており、自動車関係者のみならず、日中の経済全体において、注目を集めています。

中国国内メーカーが、電気自動車を積極的に開発・生産を行っている背景に何があるのでしょうか。そして、このことが日本企業に及ぼす影響について考察したいと思います。

1. 政府の支援、技術の向上、インフラの整備

中国政府は、環境保護や新エネルギー産業の発展を促進するため、電気自動車に対する補助金や税制優遇などの政策を導入しています。具体的には、消費者に向けて、電気自動車の購入を促す施策として、「車両購入補助金」「車両取得税の免除」「ナンバープレートの取得緩和」などが実施されています。これらが消費者の購入意欲を刺激し、電気自動車市場の成長を後押ししています。公共部門における電気自動車へのシフトも推進しています。中国において、現在、公共バスの多くが電気自動車に転換されています。

また、バッテリー技術の進歩し、電気自動車の性能が向上しました。中国では、充電インフラの整備も進んでおり、急速充電ステーションの拡充が行われています。

このように、社会全体としての環境への配慮、エネルギーの持続可能性に対する意識の高まりに加え、政府の手厚い援助が、消費者の電気自動車の需要を押し上げています。

背景として、中国は過去、ガソリン車において世界に出遅れを取っていた分、電気自動車において世界シェアを獲得するため、政府が強力な後押しを実施しています。一方、環境面において、以前はPM2.5による大気汚染が深刻でしたが、電気自動車の普及は公害問題の解決の一助になっていると考えられます。

2. 競争の激化

中国国内の電気自動車市場は競争が激しく、早くも新設と淘汰が入り乱れています。価格競争が一層激化しており、各メーカーがしのぎを削っている状態となっています。その中で、生き残ったメーカーは、競争に勝つだけのたくましさを備えていると言えます。

中国の電気自動車メーカーは、中国国内販売のみならず、自動車輸出においても世界的に存在感を増しています。中国の自動車輸出台数は、2023年に日本を抑えて世界1位となり、その中でも、電気自動車の占める割合は前年比38%増の950万台となっており、電気自動車の急速な成長がうかがえます。

中国の新車販売台数ランキング上位のメーカーは、AITO（華為技術・賽力）、Li Auto（理想汽車）、NIO（蔚来汽車）、Leap Motor（零跑汽車）、ZEEKR（吉利汽車）などが挙げられます。しかし、これらの企業において安泰な企業は1つもなく、ランキングは毎月、目まぐるしく入れ替わっています。日本において、あまり知名度はありませんが、中国国内では激しい競争の中、着実に力をつけているメーカーが育っています。

3. 日本企業に与える影響

現在、環境配慮の面から、EUを中心にガソリン車から電気自動車への転換が推進されています。2035年にガソリン車の新車販売禁止が実現できるかどうかは不透明ですが、電気自動車の世界シェアが増加する確率は高いと考えられます。

中国では電気自動車への需要が強く、その反面、ガソリン車を得意とする日系メーカーは、中国国内で競争力を落としています。日系メーカーが中国において生産規模を縮小するというニュースも聞かれており、下請の自動車部品メーカー、中国現地における雇用に対しても大きな影響を与えることが予想されます。

日系の中国進出企業において、自動車関連企業の割合は比較的高く、中国のこのような情勢変化を受けて、中国進出日系企業全体に影響を与えることが考えられます。

例えば、完成車メーカーの要望で中国に進出し中国において部品を供給しているメーカーや、それに伴う物流会社など、自動車産業は裾野が広い分、多くの企業に経営方針を転換することを迫られています。

お見逃しなく！

世界的な電気自動車への流れを受けて、中国の電気自動車業界は大きく発展しました。しかし、電気自動車の脆弱性は完全に解消されているわけではなく、極寒において走行距離が落ちること、充電に時間がかかること、バッテリー廃棄の際に汚染物質が発生すること等、まだまだ解決すべき課題は多いといえます。そのような課題解決のために日本企業の技術が必要とされる場面が必ずあると考えます。